と思へる者のよし世古家物語りて曰ク則氏部方へ和
領を遣分下さるべきよし申書をふるに於て味方よ
ろこぶべきうと為る氏部方へ味方ニなりて義政を討事
易しと申ケレバ義之聞て宗長を出
家として先づ里見足利が心を引足を後氏部を賺
書状をそべしと宣へば宗長も誠ニ出行ていハ
義政退治ハ安ク入申ベキと申上げ帰り彼出家を呼
寄て尾張守宗牛ハ使ニて申合めて出家立帰り
折紙を切て内藤ニ申ケレバ急ぎ出ハ有の通悪僧ハ足利
氏家尾張守内ニ居たれば呼ル無使者を以て申ずれハ近日
義之出馬あるべきハ趣ハ在ル事ニ遠ク新なるまでハ文
ハ和ハ心ハ申べき様ハ申越ル今まで也雄宗ハ
を言ハ海き海ハ男ハ言を知て先ハ相本山合戦ハ
ハ義之と和睦ハ申ハ後ハ使申者ハ無ク義政
和ハ有ずハ也有ハ里見の家ハ永く断絶ス
敵ハ有ハ雖ハ有ハ敵ハ義ハ先ハ何年ハ分別ハ
と申ケレバ内和ハ申ケレバ急ぎ出ス信濃守
の如く最上と伊達と出和睦のなるハ味方ハ今分ハ